

令和2年度 県立日立北高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。 (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を継承し、発展させる。 (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。 (4) 生徒一人ひとりを大切にする教育を実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。			
昨年度成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況
(学習指導) [成果]令和2年度入試の国公立大学現役合格者数は66名であった。多様な入試形態と一人ひとりの進路希望を検討し、3年間を見通した継続的な学習指導やキャリア支援等の成果といえる。1年生の地域探究を経て、2年生で沖縄探究学習を取り入れた修学旅行を実施し、生徒の自主性・行動力・発信力が向上した。 [課題]新学習指導要領や大学入学共通テスト導入に対応できる学力の3要素を育成する授業を研究していく。 (豊かな心の育成) [成果]生徒は穏やかで協調性があり、落ち着いた学校生活を送っている。システム手帳の活用は、時間管理・自己管理に寄与している。 [課題]主体的に課題を見つけ、分析・判断し、自己を表現できる生徒の育成に努めていく。 (学習活動と部活動・特別活動の両立) [成果]部活動・生徒会活動に積極的に参加しており、部活動加入率は8割を超えている。令和2年度国公立大学現役合格者に占める部活動加入者の割合は71%で、昨年度より上昇した。 [課題]学びに向かう力・学び続ける頑健な心身の育成に努めていく。 (今後のビジョン) 丁寧な学習指導を継続し生徒の可能性を広げ、進路希望を実現する。豊かな人間力と課題解決力を備えた人材を輩出する進学校として、地域からの信頼を得る。	(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進	1 習熟度別授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入し、基礎的な知識・技能の習得を図る。 2 互見授業等を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業研究、指導力向上に努める。 3 生徒の進路希望に応じた適切な課題を活用し、自ら学び続ける力を育成する。		B
	(2) 入りたい大学への積極的な挑戦	4 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と自己受容を促し、学びに向かう力を涵養する。 5 様々な進路行事の目的を明確化し、効果的な実践と振り返りを行うことで生徒の学習意欲を喚起し、適切な勤労観・職業観を育成する。 6 進路情報の収集と的確な提供に努め、生徒一人ひとりの進路に複数の教員がサポートする協力体制を構築する。 7 課外指導においては、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。		A
	(3) 「豊かな心」の育成	8 環境教育やボランティア活動を推進し、他者への思いやりを育み、いじめには組織全体で迅速に対応する。 9 相手の立場になって考え、行動できる人間性を育み、SNS使用の自己管理能力を高める。 10 国際理解教育を推進し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。 11 コンプライアンスを遵守するとともに、体罰・暴言によらない指導を実践する。 12 特別な配慮を要する生徒への、共通理解を図り、合理的配慮や適切な支援について研修を深める。		A
	(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立	13 部活動の一層の活性化を図り、生徒の自己肯定感を育てる。 14 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)を充実させ、キャリアパスポートを活用し規律や協働性を養う。		A
	(5) 健康と安全への配慮	15 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 16 生徒相談の充実にも努め、スクールカウンセラーと連携し生命の大切さを理解させる。 17 学校行事の精選、業務の適正化・効率化を検討し、教員の働き方改革を促進する。		B
	(6) 情報公開の積極化	18 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、情報公開に努める。 19 学校説明会(夏・秋)の内容を充実させ、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施し、生徒数確保に努める。 20 スクールガイドの内容を刷新し、ホームページの更新頻度を高め、広報体制を充実させる。 21 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。		A
	(7) 今後のビジョンの具体化と、 ビジョンに沿った教育活動の展開	22 本校の将来像を見据え、グランドデザインに基づき教育活動を展開する。 23 地域の中の学校として、普通科の在り方について検討を進める。		B

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	理解を深める指導	学習の目的・内容を明らかにし、わかる授業の展開に努める。	1, 2	A	A	・互見授業をより充実させ、ICTやオンライン等を活用した授業研究を継続し、指導力向上に繋げる。
	積極的な学習態度の育成	習熟度別授業や課題学習を通して、自ら課題を見付け解決する能力を養う。	3, 4	B		
国語	基礎学力の向上	予習・復習の取り組みを習慣化させ、家庭学習の定着を図る。	1	A	A	・早期からの家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の定着と進路希望を実現できる学力を伸ばす。 ・生徒が考える場面を増やし、主体的に学習に取り組むことができる授業の工夫や、生徒の実態をよく把握して指導改善に努める。 ・国語科における効果的なICTの活用方法を検討する。
		小テスト等を実施して学力の把握に努めるとともに、授業展開を工夫し、生徒が主体となる学びの場を設定する。	1, 2	B		
	大学進学に対応した学力の向上	課外等を実施し、問題の演習を重ねながら基礎力を高め、応用力の向上を図る。	3, 7	A		
地歴	基礎学力の向上を図る。	シラバス等に基づいた授業を展開し、系統的な指導による知識の理解をすすめる。	1, 2	A	A	・生徒の興味、関心を高められるよう視聴覚教材の利用や図録の活用など授業展開を工夫する。 ・史資料の活用、読解など生徒の思考力や判断力、そして自分の考えを表現する力を養えるよう工夫する。 ・新課程に向けた情報収集を行う。
	家庭学習の定着に努める。	ドリル等を実施し、授業内容の定着を図る。	1, 3	B		
公民	大学進学に対応した学力の向上	小論文指導を通して、思考・判断力の醸成に努める。	1, 3	B	A	・時事的な話題の提供などを通して、生徒の思考力や判断力を養えるよう工夫する。 ・大学入試に向けた小論文の更なる指導力の向上を目指す。 ・新課程に向けた情報収集を行う。
	公民的思考力を養う。	時事問題に関心を持たせ、自己の在り方・生き方を考えさせる。	3, 10	A		
数学	基礎学力の向上を図る。	演習・授業で少人数授業や習熟度別授業を積極的に活用し、生徒が学習しやすい環境をつくる。	1	B	A	・基礎基本の定着のための課外や補習等の支援ができています。生徒たちの力をさらに伸ばすためには現状を的確に把握し、指導を工夫していく。 ・休校期間中に初めて導入した動画配信による授業の実施から見た利点をまとめ、動画配信を家庭学習の習慣化に繋がるような工夫の一つとして検討していく。 ・入試を見据えた授業進度や考查の難易度の設定など、教科会などを通して共通理解を図れている。教科全体で共通理解を持つて、異動などでメンバーが替わっても生徒たちのためによりよい指導ができるようなシステムを構築を継続して考えていく。
		生徒の実態に応じて教材研究や授業研究を行い、分かりやすい授業を実践し、基礎学力の向上を図る。	2	A		
	家庭学習の定着に努める	副教材を用いて計画的に授業の復習をする。習慣が身に付くよう、定期的にノートを点検する。	3	A		
	大学進学に対応した学力の向上	予習、授業、復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかりと行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。	3	A		
		模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	7	A		
理科	基礎学力の向上を図る。	小テストやドリルなどを実践し、一人ひとりの学力を把握し学力向上を図る。	1, 2	A	A	・春に予定していた実験観察の中止など、実験・観察の実施が少なくなってしまった。次年度は、密を避けるようにしながらも生徒実験・観察が行えるように工夫・計画を立てていく必要がある。 ・生徒実験が実施できなかったが、演示実験や映像での提示は行うことができた。
	科学的思考力・判断力を養う。	教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める力を育成する。	2, 3	A		
		実験・観察を通し、科学的に判断する力を育成する。	2, 3	B		
保健体育	授業時間の確保	集合時間を厳守させ、チャイムと同時に授業が始められるようにする。	1, 16	A	A	・授業始めや最後の集合・整列時に間隔をマーカーで示し、密集しないようにすることや使用用具の消毒、生徒の手洗いなどの徹底を継続して行い、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じることができた。 ・リモート授業での体力向上について検討をしていく必要がある。
	頑健な体力と強靱な精神の涵養につとめる。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	2, 13	B		
		安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	2, 13	A		
	健康の保持増進に努める	感染症の予防や心身の健康について理解を深める。	28	A		
芸術	基礎基本の重視	個々の表現に応じ、基礎・基本に重点を置き、技術・技能を修得させる。	2, 4	B	A	・より良いものへと仕上げようとする粘り強さをつけさせるために、個に応じた課題設定・指導・声かけを行っていく。 ・生徒の実態に合わせた課題の更なる検討とリモート授業などにも対応できるような課題の準備をする。
	鑑賞能力の育成	インターネットやAV機器を活用し、より多くの芸術作品に触れさせ、鑑賞能力を伸ばす。	2	A		
	評価法の工夫	自己評価や、生徒間の相互評価により、自らの表現に対し客観的な視点を持たせる。	1	A		
外国語(英語)	基礎学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人一人の到達度を把握し、学力の向上を図る。	1	B	A-	・大学入学共通テストや英語外部資格検定を見据え、4技能をバランス良く伸ばすための授業改善を行う。 ・それぞれが研修を積みながら、学年・教員間の連携を密にし、共有したり次の学年に引き継いだりできるものは積極的に活用していく。 ・外部検定試験の受験方式が従来型からS-CBTに変更することに伴い、確実な受験スケジュール管理・結果把握・記録管理の仕組みづくりと運営を実施できるようにする。 ・教材などは単純に前年度を踏襲するのではなく、しっかり教科として振り返りを行い、精選していく。 ・繰り返し学習を徹底させ、学力定着を確実なものとする。
		定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	1, 4	B		
	家庭学習の定着に努める。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	1, 3	A		
		声かけを丁寧に行うことにより、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	2, 12	B		
	受験に対応できる確かな学力を身につけさせる。	教材の精選を図り、密度の濃い授業を展開する。	2, 3	A		
		課外授業を通じて、一人一人の進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	1, 7	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
	家庭	将来を見据えた自立への意識の高揚	今までの自分を見つめる活動と、様々な人の生き方や問題点を探る活動をととして、将来を見つめ、自立への意識を高める。 自分の生活をデザインしようとする意識の高揚を図る。	3、5、6	A	A	・学習内容を自分事として捉えられるよう教材を工夫する。 ・習得した知識や技術を積極的に実生活で活用させる。 ・課題解決の思考を深められるよう指導法を工夫する。
		自立した生活に必要な知識・技術の定着を図るとともに、適切な価値判断と意思決定をする力の育成	実習・体験学習を多く取り入れ、技術の習得を図り、実践的な力を育成する。	4、8、12	A		
			グループ活動をととして、協働や協調性を育成する。	9、12	B		
			生活課題を見つけ解決していく実践的な態度を育成する。	1、8	A		
			課題を解決するために思考し、判断した内容をレポート等でまとめる力を育成する。	3、5、12	B		
	情報	情報社会に参画する態度を育成する。	情報通信ネットワークとコミュニケーションについてその仕組みの理解とマナーについて理解させる。(コミュニケーションにおける情報ネットワークの活用、ネチケット、電子メール、SNS)	9	B	A	・情報モラル等の情報社会の課題についてを自分事として理解し、情報リテラシーを身につけられるよう、内容を最新化すること・身近な問題点を取り上げるなど、教え方を工夫する。 ・学年と連携して進路学習・探究学習をサポートする。
			情報の収集・発信の方法を実習をととして具体的に理解させる。(情報検索、デジタルプレゼンテーション)	1	A		
			各種メディアから進路に関する情報を収集・整理し、自己の在り方生き方について主体的に考えさせる。	3、6	A		
			情報化の推進と社会への影響及びその功罪について考えさせる。	2	A		
	教 務	授業時間の確保	調整日を設けるなど工夫して授業実施時間に不均衡が生じない年間計画の策定を行う。	1、17	B	A	・業務に関するマニュアルの整備 ・引き続き互見授業の機会を設定し授業力向上に資する ・教育目標の具体化と目的意識の共有 ・国際理解教育の模索 ・ICT教育への対応およびルール策定 ・PRの仕方の在り方についての検討 ・新しい学力観に基づく評価の在り方への模索
授業力向上の推進		積極的な互見授業を通して、生徒の学力向上に不可欠な授業力の向上を図る。	2	A			
学力向上の推進		達成目標に準拠した学習内容・方法について教科シラバスの再検討を行い、「分かる授業」を実施する。	1、3	A			
自ら課題を見つけ自ら学ぶ力の育成		すべての教科で主体的に学ぶ学習場面を増やすとともに、3年間を見通した「総合的な探究の時間」の指導を通して自ら学ぶ意欲を向上させ、学ぶ喜びを実感させる。	4、5、1	A			
教育課程編成の研究		新学習指導要領に対応し、生徒にきめ細かく対応できる教育課程への移行を行う。	11、12、22	A			
生徒指導	学年の協力的体制作り	生徒に関する情報交換を密にする。	9、16	A	A	・LGBT等の多様な性に対する理解を深め、対応を検討していく。 ・公共の場やSNS上等での振る舞いについて、より丁寧な指導が必要である。	
		生徒指導に関する情報、資料の収集と提供に努める。	8、12、16	A			
			容儀指導を徹底し、端正で高校生らしい服装・マナーの維持を図る。	8、9			B
	生徒の現状把握	登校指導の継続的实施によって、あいさつや身だしなみが整った生徒の育成に努める。	9、15	A			
		教育相談の充実を図り、生徒の理解に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。	16	A			
		幅広く客観性が担保されるよう校則の点検・見直しに取り組む	11	A			
	事故の未然防止	登校指導・自転車乗車指導や被害調査を実施し、事故の未然防止に努める。	8	A			
		さわやかマナーアップ運動の積極的な実践を推進する。	8、9	B			
		貴重品の管理を徹底し、盗難の防止に努める。	8、9	A			
	生徒の意識の高揚	日立北高生としての自覚を持たせ、学校への「学び舎」としての意識を涵養する。	4	B			
		「道徳」や「道徳プラス」において「心の教育」を実施し、生徒の規範意識を涵養する。	9	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の適切な進路選択の支援	生徒の主體的な進路選択が支援できるように、個別面談を充実させる。そのために、入試情報などの各種情報を整理して、担任や生徒に適切に提供する。	4、6 21	B	・生徒の基礎学力を向上させるための工夫。特に、家庭学習習慣の定着に向けた指導の工夫・改善。 ・学校推薦型選抜指導のノウハウ継承のための研修の工夫。 ・生徒の適切な進路選択のために、生徒・教員双方へ進路情報を適切に提供する。 ・本年度は新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった進路行事もある。特に希望者向けの体験を伴うものは、生徒の進路意識の向上やキャリア教育の観点から非常に重要である。次年度以降、再開された行事を積極的に案内したい。 ・一つひとつの行事をより一層充実させるために、目的の共有と効果の検証をきちんと行う。
		職業観育成セミナー、進路観育成セミナー、大学模擬授業など、進路関連の様々な行事を通して、生徒が自分の将来について真剣に考える機会を設ける。また、行事内容のより一層の充実と精選を図る。	5	A	
		茨城大学工学部インターンシップ、一日看護体験などの希望者対象の各種進路体験を生徒に積極的に案内し、自分の進路に対する視野を広げる機会を増やす。	5、6	B	
	生徒の基礎学力の向上	授業を中心とした予習・復習の習慣を定着させる。そのためにシステム手帳の活用や、スタディサブリの活用・普及に向けて、学年や担任をサポートする。	3、4	B	
		実力養成のための学習機会を確保するため、朝ドリル・小論文指導・面接指導・実技指導・模擬試験・平常課外・長期休業日課外等を実施する。また、土曜登校日・早朝夜間自習室開放・休日自習室開放への積極的参加を推進する。	3、7	A	
		入試問題や入試情報・受験報告書等の整理と適切な提供に努め、学習意欲の喚起と学力の向上を図る。	3、6 21	A	
		職業探究、学問探究、地域探究、沖縄探究という一連の探究活動を通して、自分で課題を発見し、それを突き詰めていく力を育成する。	3、5	A	
	指導のノウハウの継承	校内研修において本校の推薦指導のノウハウの伝達と継承に努め、大学受験の合格者数の維持や、より一層の増加を図る。	4、5、6	B	
進路分析会を毎年開催し、学年や担任の指導のノウハウの伝達や継承、改善を図る。		4、5、6	A		
保健厚生	生徒の心身の健康増進	健康の推進や環境整備を通して、生徒の健康の維持・増進を図る。	15	A	・感染症予防対策として教室内換気用の固定器具を装着した主旨や意図を確実に伝え活用する。 ・養護教諭不在時の対応を確実に行う。 ・新型コロナの影響を受けて5月の避難訓練は通報訓練のみの実施となった。新型コロナ対応を考慮したやり方を考える必要がある。 ・エアコン使用は担任や授業担当者が適切に操作する。 ・ライフプランセミナーが新型コロナウイルスの影響を受けて今年度の2学年は実施できなかったため、来年度の新2学年と一緒に講話を開けるようにしたい。
		定期健康診断が円滑かつ効果的に行えるよう体制を強化する。	15	A	
		感染症予防体制の強化を図る。	15	B	
		養護教諭不在時の応急処理体制の強化を図る。	15、16	B	
		感染症、栄養、運動、休養、保健室等の利用状況について「保健室だより」を月1回発行する。	15、16	A	
		保健厚生部広報紙「葵」を年1回発行する。	15、16	A	
	安全で快適な教育環境の維持に努める。	ゴミ処理の分別が円滑に行えるよう、生徒への指導を徹底する。	15	A	
		短時間で効果的な清掃が行えるよう清掃方法を指導する。	15	A	
		防災訓練を実施し、非常時の安全確保に備える。	15	B	
		エアコンの使用について、使用温度等の規則の徹底を図る。	15	B	
		大掃除の実施時期と係分担を定め、効率的・効果的に環境の美化に努める。	17	A	
		奨学生募集のインターネット化に対応できるよう、厚生係の体制の強化を図る。	17	A	
		専門家による性教育を実施する。	15	C	
		特別支援教育の充実に努める。	12、16	A	
特別活動	ホームルーム活動の充実を図る。	年間計画に従い、計画的なロングホームルームの運営を行う。	20	B	・各係業務内容のマニュアルの整理と、次年度への確実な引継ぎを行う。 ・関連事業への早期準備と、生徒が主体となって計画実行できるための指導方法を確立する。 ・ロングホームルームの計画的な実施と、新テストに対応可能な弾力的運用の研究を進める。
		ホームルーム活動指導資料集の活用を進めるとともに、キャリアパスポートを活用し規律や協調性を養う。	16	B	
	部活動の活性化を目指す。	学業との両立を基本に、より活発な部活動を目指す。	19、22	A	
		文化部への積極的な参加を促し、バランスのとれた部活動編成に努める。	19	A	
		施設・設備の整理・整頓に努め、自ら活動環境を整えようとする意識を高める。	14	A	
	開かれた生徒会活動を目指して指導する。	「生徒会ステーション」を発行し、広報に努める。	20	A	
		生徒会活動を手伝うボランティアを一般生徒から広く募り、一緒に生徒会活動を行っていく。			

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
図書	図書館利用の促進	図書部関連行事の徹底を図る。	16	B	A	・授業での使用を促進する。 ・蔵書点検を行い生徒活動を促せた。 ・新刊図書を多く購入した。
		書籍、資料等の利用を促進させる。	13	A		
		図書委員会活動を活性化させる。	13	A		
		書籍・資料の充実に努める。	13	A		
渉外	学校に対する保護者の意識を高め、保護者との連携を図る。	学校の教育活動広報のため、PTA広報紙を発行する。	18	A	A	・コロナウイルス感染防止とPTA活動の対応 ・PTA役員、専門委員(学年委員)の選出方法の検討とPTA会則一部改正
		社会人(卒業生)による職業講話を実施し、生徒の進路選択に資する。	5	A		
		長期休業中に保護者と協同して巡視を行う。	18	B		
	同窓会との連絡を密にし、同窓会活動に協力する。	同窓会役員と定期的に連絡を取り、情報交換に努める。	18	A		
		同窓会幹事会に学校の動向を伝える。	18	A		
1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶・身だしなみ・時間厳守・言葉使い・清掃を通し、基本的生活習慣を確立する。	5、6	A	B	・基本的生活習慣の一層の確立 ・更なる主体的な、物事への取り組み ・面談、朝と帰りのSHRの活用、システム手帳による意識の向上 ・進路指導の深化と自己実現への行動
		周囲に対する思いやりの気持ちを持たせ、集団生活に適応できる人材を育成する。	8、9	B		
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を第一に予習・復習を励行し、基礎・基本を身につけさせる。	2、3	A		
		朝ドリル・課外授業に積極的・継続的に取り組ませる。	7	B		
	進路指導の充実	早期から進路意識を持たせ、進路研究を進めさせる。	6、21	B		
		個別面談・ホームルーム・集会・講演会等を活用し、自己の将来像を持たせる。	4、5、6	A		
2学年	基本的生活習慣の確立	社会人として必要な言動(挨拶・身だしなみ・時間管理・マナー・思いやり等)を励行し、継続的に実践できるようにする。	8、9	B	B	・進路目標を具体化・明確化するための進路行事の実施 ・進路実現に向けた生徒ひとり一人の意識向上 ・学年全体として学習に本気で取り組む雰囲気作り ・大学入学共通テストに向けた対応と生徒への情報提供 ・生徒による主体的な活動の促進(学習・行事・進路など)
	学習習慣の確立と学力の向上	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習と、ドリル・課外等に主体的・継続的に取り組ませる。	2、3	B		
	進路探究活動の充実	オープンキャンパス・職業体験等への積極的な参加を促すことで、自身の将来像を具体化させる。	5	B		
		個人面談、HR、講演会、模試等を活用し、進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4、6	A		
	組織力の向上	いじめや事故の未然防止のため、学年会等を活用して教員間で生徒情報を共有する。	8	A		
		学年団で教務の分担やノウハウ・データの共有を積極的に行う。	17	A		
3学年	基本的生活習慣の確立	社会人としてあるべき姿をふまえて、挨拶やマナーなどTPOに応じた言動を励行させる。	8、9	A	A	・生徒の学力向上を目指したPDCAサイクルの構築 ・共通テストをはじめとする新しい大学入試に対応できる思考力、判断力、表現力を育成する授業の充実 ・成績上位者の伸長を目指す指導方法の研究 ・学校推薦型、総合型入試に向けた教員の体制作り(意識の共有)と指導力向上 ・学年進路行事の効果的实施と主体的な取り組みの促進 ・学年団として業務分担の見直し、分散化
		学年団として、さまざまな指導の機会を活用して、生徒に自律的な生活ができるよう指導する。	8、9、14	A		
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	担任・副担任と生徒との信頼関係をもとに、生徒の良い面をさらに伸ばすよう適切にアドバイスをする。	4	A		
		学校行事、部活、清掃、課外等に参加させ、心身を鍛え、自ら考え責任ある行動がとれるようにする。	13、14	B		
	進路希望実現への支援	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	1、3、7	B		
		個人面談、HR、講演会、模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4、5、6	A		

* 評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない